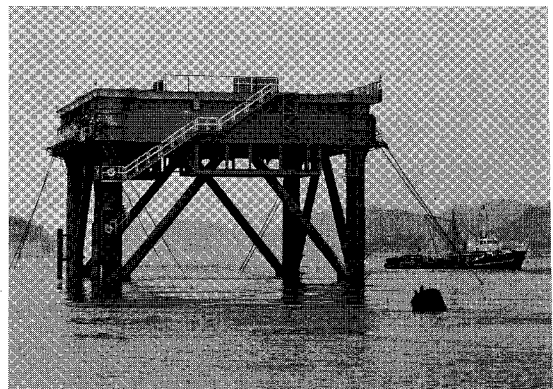
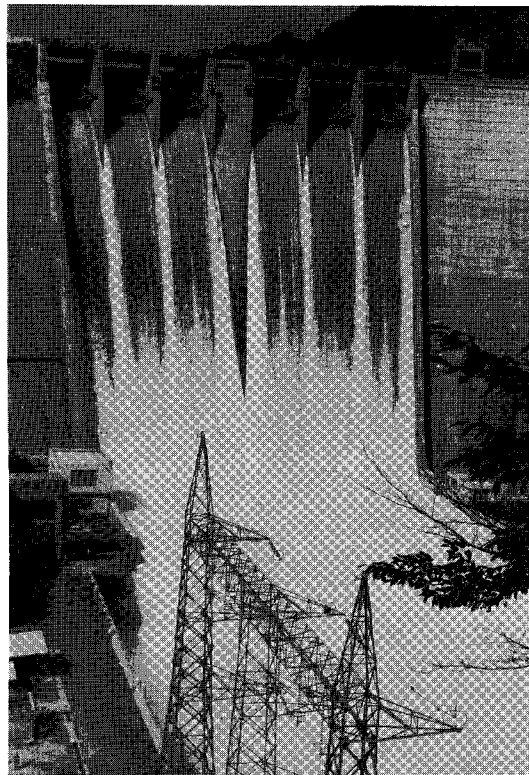


'68

特集・回顧と展望 本文特集欄参照



ここ数年 12月号に掲載していた「回顧と展望」を、本年から3月号に載せることとなり、より充実した特集としてお届けできるよう編集委員会は配慮した。ますます専門化する土木分野の1ヵ年間の動きをかざられた頁内に圧縮することは困難ではあるが、土木を専門とする各位、ならびに関係者の皆様が、この分野の流れを1年という単位内で総覧することは決して無意味ではないことと考え、編集の基本方針としました。

写真—1 首都高速道路多摩川橋梁 写真—2 新成羽ダム

写真—3 本四連絡架橋の基礎実験施設（日本鉄道建設公団）



1

大阪国際空港・ターミナルビル竣工

関西の空の玄関である大阪国際空港は、昭和 33 年返還と同時に、① 3 000 m の滑走路の新設、② ターミナルビルの新営、③ 旅客貨物用エプロンの増設、④ 近代的な航空保安施設の充実等を含む空港整備拡張計画（総事業費約 350 億円）をもって生まれ変わることになり、来る昭和 45 年開催が予定されている日本万国博覧会の開会に間に合わせるべく、工事がすすめられている。そのうちのひとつであるターミナルビルの工事がこのほど完了したので、2 月 1 日公開・活動が開始された。本ターミナルビルには近代的な各種の設備が備えられており、利用者から好評を博している。写真-1 は完成したターミナルビル、写真-2 は



2

工事中の 3 000 m 滑走路（現在使用中の 1 830 m の滑走路が写真中央上部に見える）と、同時に完成した阪神高速道路（空港線）である。詳細については、本文ニュース欄を参照されたい。

内容・主旨紹介

今月号の登載記事の要旨を記してあります。切り取ってパンチカードにはりつけて整理に供して下さい。

特集・回顧と展望 1968

土木学会誌第54巻第3号, pp. 11~79, 昭和44年3月 (March 1969)

1968年の土木の各分野の動きをとらえ、将来への展望の糧としようとしたのが本特集である。本特集は、以下の16項目について、各専門分野の編集委員が中心となって記述した。すなわち、①はじめに、②土木教育・技術者問題、③材料、④建設機械、⑤コンサルタンツ、⑥建設業、⑦都市計画、⑧河川・水資源、⑨港湾・空港・漁港・海岸、⑩上下水道・工業用水、⑪土地改良、⑫鉄道、⑬道路、⑭発電施設、⑮橋梁、⑯トンネルの各分野についてふれている。

EARTHQUAKE RESISTANT DESIGN FOR CIVIL ENGINEERING STRUCTURES, EARTH STRUCTURES AND FOUNDATIONS IN JAPAN, 1968 ご希望の方へ

標記の図書の初版は1960年に東京で第2回世界地震工学会議が開催されたのを機会に刊行し、非常に好評を得ました。本年1月第4回世界地震工学会議がチリーで開催されたのを機会に全面的に書きかえて今般1968年版を刊行しましたので広くご利用下さい。

1960年以来わが国では新潟地震、松代地震、十勝沖地震など多くの地震を経験し、また黒四ダムをはじめ名神高速道路、天草五橋などの大きな土木構造物が出現しております。これらの構造物の耐震はどのように考えられているのかを本書では土質、ダム、港湾、水道、橋梁の5つに分け、わかりやすく解説してあります。とくに橋梁編では耐震を考慮した各種の橋梁(20~30)の実例を設計図や断面図を用いて詳細に記述してあり、今までのどの本にもみられないユニークなものとなっていますので一般技術者の一読をおすすめします。

内 容:

Map of Strong Earthquakes.

List of Recent Strong Earthquakes.

Earthquake-Resisting Design for Earth Structures and Foundation

The Japanese Society of Soil Mechanics and Foundation Engineering

Earthquake Resisting Design Features of Dam in Japan

Japan National Committee on Large Dams

Earthquake Resistant Design for Quaywalls and Piers in Japan.

Bureau for Ports and Harbours Ministry of Transport and

Port and Harbour Research Institute Ministry of Transport

Earthquake-Proof Measures for a Water Supply System

Japan Water Works Association

Earthquake Engineering for Bridges

Bridge and Structural Committee, Japan Society of Civil Engineers

体 裁: B5判 9ボ一段 本文140ページ 口絵4ページ 折込図1枚

定 価: 1,600円

送 料: 70円

土木建設界と関連産業のすべてを系統的に鳥瞰できるわが国唯一の年鑑・第三冊目完成!

土木年鑑 1969

B5判上製箱入・約500ページ 写真・図版・統計表多数 3500円

◇口絵写真(東名高速酒匂川橋梁ほか) ◇第1編 論説・全国総合開発計画と土木(山本三郎) ◇第2編・展望 ◇第3編 工学技術および関連資料 ◇第4編・事業 ◇第5編 資料 ほかには都道府県別主要土木事業箇所別一覧図など掲載

<本年鑑の5大特色> ① 広い視野に立った編集方針 ② 斯界の権威を網羅した編集・執筆陣 ③ 豊富な内容・系統だった分類 ④ 見て楽しめるビジュアルな年鑑 ⑤ 美麗・堅牢な造本と鮮明な印刷

土木学会田中賞設立を記念し昨年に引続き刊行されたユニークな橋の年報・好評発売中!

橋 BRIDGES IN JAPAN 1967-1968

A4判上製カバー付 82ページ・原色版によるカラー写真入り 図表多数 1500円

土木学会田中賞設立の趣旨と本年報発刊の目的(福田・平井) 本州四国連絡橋技術調査報告書の概要〔受賞作品〕福島第一高架橋・名護屋大橋 鋼橋 1967年の展望 箱ヶ瀬橋・舞鶴跨線橋・瀬詰大橋・谷町インターチェンジ・竜頭の橋・水道道路架道橋・狭間第6架道橋・越ヶ谷架道橋および八ツ道越ヶ谷架道橋・姥久保橋・大天橋 コンクリート橋 1967年の展望 想影橋・大呼戸沢橋梁・みなと大橋・有田川橋梁・瀬田川橋梁・小高瀬高架橋 1967年竣工主要橋梁一覧〔受賞論文〕Response of Suspension Bridge to Moving Vehicles(伊藤) 田中賞選考経過(福田)

第15回海岸工学講演会講演集 ● B 5・372頁・3 500円(〒110円)

1. 風波におよぼす油膜の効果に関する実験〈日野・片岡・金子〉
2. 有限振幅波のshoalingについて(2)〈岩垣・酒井〉
3. 表面波による振動流境界層に関する実験的研究〈堀川・渡辺〉
4. 浅海重複波による質量輸送〈野田・川嶋〉
5. 砕波による水理特性〈中村・白石・佐々木〉
6. 砕波帯の波の研究(1)一観測法および例一〈井島・松尾〉
7. 海岸構造物不連続部の波高分布について(3)〈三井・川崎〉
8. 造波水路における波浪実験の二, 三の問題点について〈合田〉
9. 博多湾の風と波一低風速時の一例一〈光易〉
10. 中予海岸における波の推算と問題点〈浜口〉
11. 大瀧海岸における波浪推算の一例〈柿沼・石田・門司〉
12. 記録にもとづく海岸波浪の非線型性の解析〈柿沼・石田・門司〉
13. 防波堤の設計波浪に関する二, 三の考察〈尾崎・川上〉
14. ピアソン型分布による海の波〈久宝・竹沢・天竺〉
15. 不規則な波の入射および反射エネルギー スペクトルの測定法について〈鹿島〉
16. 波動による球の振動〈椎貝・河野〉
17. パイルに働く波力のスペクトルの理論一流れと波の共存する場合一〈日野〉
18. 低基混成堤に働く波圧〈永井・大坪〉
19. 波と流れによる砂の移動について〈中村・白石・佐々木・伊藤〉
20. 波による砂連のスペクトルについての実験〈日野・福岡・古沢〉
21. 沿岸流速に関する二, 三の考察〈堀川・佐々木〉
22. 堤防前面の海浜変形に関する一考察〈細井・荒川〉
23. 海岸侵食と海水準変動〈高〉
24. 海蝕崖の侵食に関する実験的研究〈堀川・砂村〉
25. 皆生海岸の侵食について〈馬場・河村・成石〉
26. 鹿島港防波堤延長工事に伴う海底地形の変化について〈佐藤・田中・入江〉
27. 離岸堤工法について〈豊島〉
28. 海中浮泥の分布と潟面への影響について〈溝田〉
29. 密度流の問題(3)〈浜田〉
30. 河口における塩水と淡水の混合〈福島・八畝・高橋・大谷〉
31. 河口の流れの構造(1)〈柏村・吉田〉
32. 河口閉塞にともなう河道内水位の変化について一河口閉塞機構に関する基礎的研究; 第3報一〈榎木〉
33. 深層取水の流れへの考察(II)〈大西・日野〉
34. 有限振幅の定常長波〈首藤〉
35. 異常潮位に関する統計的考察〈村木・鎌田〉
36. 河川潮汐の研究(1)〈宇野木〉
37. L字形湾の振動特性について(2)〈堀川・首藤・西村〉
38. 十勝沖地震津波調査報告〈堀口・横田〉
39. 海岸における鋼構造物の防食について(2)〈向江脇・沢村・谷・前田〉
40. 不規則波に対する護岸の期待越波流量について〈合田・竹田〉
41. 海岸堤防の越波の飛散(水平)分布について一のり勾配の影響一〈高田〉
42. 海岸堤防の越波について〈富永・佐久間〉
43. 海岸堤防の越波実験における縮尺効果について〈岩垣・井上・金田〉
44. 浮防波堤の模型実験〈久宝・大橋・牧野〉
45. 透過性鋼管防波堤とその基部洗掘〈林・服部〉
46. 工業用水の取放水問題〈和田・片野〉
47. 海岸に放出する水力発電所放水路への海水侵入について〈中村〉
48. 淡水湖における淡水層中への塩分鉛直拡散〈南・福岡〉
49. 火力または原子力発電所より放出された温噴流の湾内拡散〈林・首藤・川上〉
50. 湾内における物質の拡散一東京湾の場合一〈堀口・石塚・横田〉
51. 水理模型実験による廃水拡散の研究(1)〈江村・鬼塚・深尾・山口〉
52. Water Curtainによる波浪の減衰に関する実験的研究一鉛直上向き噴流列の応用研究一〈室田・村岡・中山〉
53. 潜堤による風波の減衰機構について〈堀川・小森〉
54. 透過性構造物の減勢機構に関する実験的研究〈久保・井田〉
55. 水路を遡上する波の減勢工に関する二, 三の考察〈千秋・藤本・島田〉
56. 合掌ブロックの特性について〈永井・大坪・遠藤〉
57. 二重カーテン壁消波工の消波効果について〈加藤・乃万〉

◆バックナンバーあり. 第14回 2 500円・第13回 2 200円・第12回 1 500円◆

建設技術者のための測定法

新刊

土木学会誌に連載された講座「測定」を
読者の要望にこたえて全面的に改筆・加
筆した決定版です。

技術革新のいちじるしい現代では、あら
ゆる現象を定量的にとらえて技術を推進
してゆかなければなりません。

本書は建設工事に従事するすべての技術
者に必須な知識である「測定」に関する
始めてのユニークな単行本です。

目次

- 第1章 総説
- 第2章 測定器械 2.1 流体に関する測定器 2.2
固体に対する測定器 2.3 電気変換測定装置
2.4 電波・レーザー光および音波利用測定機
2.5 記録装置
- 第3章 測定値の処理法 3.1 データのまとめ 3.2
母集団と標本 3.3 確率分布 3.4 標本分
布 3.5 推定 3.6 検定 3.7 実験式の
あてはめ 3.8 周期的変動をする測定値の処
理 3.9 現象解析上の統計処理
- 第4章 気象に関する測定 4.1 気圧に関する測定
4.2 気温に関する測定 4.3 湿度に関する
測定 4.4 蒸発に関する測定 4.5 霧に関
する測定 4.6 雨に関する測定 4.7 雪に
関する測定 4.8 風に関する測定
- 第5章 地盤に関する測定 5.1 土質に関する測定
5.2 岩盤に関する測定 5.3 地すべり、砂
防に関する測定
- 第6章 水に関する測定 6.1 流水に関する測定 6.2
河川に関する測定 6.3 海岸に関する測定
- 第7章 構造物に関する測定 7.1 応力および振動の
測定 7.2 ダムに関する測定 7.3 橋梁(上
部工)に関する測定 7.4 橋梁(下部工)に
関する測定 7.5 トンネルに関する測定
- 第8章 交通運輸に関する測定 8.1 道路に関する測
定 8.2 鉄道に関する測定 8.3 空港に関
する測定
- 第9章 衛生工学に関する測定 9.1 上水、工業用水
に関する測定 9.2 下水道に関する測定 9.3
水質汚濁に関する測定 9.4 大気汚染に関す
る測定

A 5判 422ページ上製

■定 価 2000 円□

□会員特価 1800 円■

<送料は 110円です>

土木学会測定法編集小委員会

委員長 高田 孝信

委員 伊吹山四郎 奥田 穰

久保慶三郎 合田 良実

佐藤 裕 高橋 彦治

谷口 敏雄 服部昌太郎

樋口 芳朗

委員兼 柏谷 衛 土屋 昭彦

幹事 中村 英夫 林 正夫

山本 稔 渡辺 隆

◁ 申込方法 ▷

代金に送料を添え前金でお
申込み下さい。まとまった
お申込みは送料が安くなり
ますのでご相談ください。

郵便番号 160

東京都新宿区四谷1丁目

電話 351-4131(直)

振替 東京 16828

取引銀行□第一銀行八重洲口

支店・四谷支店/住友銀行麹

町支店/三菱銀行四谷支店/

富士銀行四谷支店

 土木学会